

初対面 2 者間会話におけるディスコース・ポライトネスの基本状態の調査⁽¹⁾
スピーチレベル/接頭辞「お」「ご」の付く語/助詞「ね」「よ」「よね」という要素から
木林理恵・関崎博紀*・木山幸子*・施信余*・黄瓊芸*⁽²⁾**

1. はじめに

本稿では、宇佐美(主なものは 2001、2002)の一連の研究にならい、いくつかの観点から、初対面 2 者間会話におけるディスコース・ポライトネスの基本状態を求めた。

Brown&Levinson(1987)のポライトネス理論が発表されて以来、これまで、ポライトネスに関してさまざまな議論がなされてきている。宇佐美の一連の研究(2001、2002)では、ポライトネスを、言語形式の丁寧度などではなく、対人関係調節機能としてより広く捉える必要があると主張している。そして、ポライトネス理論を談話レベルで捉える「ディスコース・ポライトネス理論」(以下、DP 理論)を提唱している。

詳細は宇佐美(2001、2002)を参照されたいが、簡単にディスコース・ポライトネスについて述べる。ディスコース・ポライトネスとは、「1 文レベル、1 発話行為レベルでは捉えることのできない、より長い談話レベルにおける要素、及び、文レベルの要素も含めた諸要素が、語用論的ポライトネスに果たす機能のダイナミクスの総体(宇佐美、2001)」である。DP 理論では、ポライトネスを「有標ポライトネス(marked politeness)」と「無標ポライトネス(unmarked politeness)」に分けて考え、それぞれ体系化した上で、双方を包括する理論を構築する。「有標ポライトネス」として位置付けられているのは、Brown&Levinson(1987)が唱えた、1 発話行為レベルにおけるフェイス保持のための戦略としてのポライトネスである。「無標ポライトネス」とは、「守られていて当たり前で、期待されるポライトネスがないときに、初めてそれが意識され、impolite だと捉えられる(宇佐美、2001)」ものである。その、守られていて当たりの状態を「基本状態(default)」といい、そこからの動きによって、語用論的ポライトネスの効果が生み出される。従って、ポライトネスを相対的に捉えるためには、特定の談話の「基本状態」を同定する必要がある。でてくる。

ディスコース・ポライトネスの基本状態を同定する要素として、宇佐美(2001)ではスピーチレベルに焦点を当てている。しかし、それだけではなく、適当なあいづちの打ち方や頻度、話題導入の頻度、発話連鎖のパターンなど、言語形式以外のものもディスコース・ポライトネスを構成する要素となりうることも述べている。

本稿では宇佐美の一連の研究にならい、日本語の成人初対面 2 者間会話における「基本状態」を探るため、次の 3 つの要素を取り上げ、その頻度と割合を示す。

- 1) スピーチレベル
- 2) 接頭辞「お」「ご」の付く語
- 3) 助詞「ね」「よ」「よね」

DP 理論に基づき特定の談話の基本状態を同定することは、まだあまり行われておらず、このような資料を出すことそのものに意義があると考えられる。以下、各要素の観点から見た初対面 2 者間会話の基本状態を、数値を示すことによって報告する。

(1) 本稿は、東京外国語大学の宇佐美まゆみ教授の指導のもとまとめたものである。

(2) ** 東京外国語大学大学院博士後期課程 * 東京外国語大学大学院博士前期課程

2.1 データ

2. 発話文全体・発話文末のスピーチレベルについて

スピーチレベルは、DP 理論を考えるうえで重要な要素である。私たちは、宇佐美の一連の研究にならない、また、分析の対象としている会話データの特徴を検討しながら、初対面2者間会話におけるスピーチレベルのコーディングを行った。

宇佐美(2001、2002)では初対面2者間女性ベースの72会話をを用いているのに対して、本稿では、男性ベース18会話を分析の対象とした。これは、3名の35歳のベースのインフォーマント(男性)に、それぞれ同性・異性の「目上(45歳)」「同等(35歳)」「目下(25歳)」の計6通りの相手を割り振り、約15分ずつの会話、合計18会話を採取したうち、初対面の特徴が最もあらわれる最初の3分間を文字化したものである。文字化は、宇佐美(2003)に基づいて行い、録音からの文字起こし後、担当者を変えて2回、文字化自体のチェックを行った。

2.2 コーディング

発話文全体と文末のスピーチレベルに焦点をあてた。以下にそれぞれの指すところを述べる。ここでは便宜的に「S」「P」「N」の順に言語形式の丁寧度が高い、という言い方をする。

2.2.1 発話文全体

発話文全体の中で、言語形式の丁寧度が最も高いものについてコーディングを行った。例えば「ご実家、近いんだ。」という発話文の場合、文末「近いんだ」は「N」になるが、「ご実家」は「S」にあたるので、発話文全体は「S」とコーディングする。コーディングの各種類は以下の4つである。

「S」: Super Polite form

聞き手および第三者に対する尊敬語・謙譲語等を含む発話である。以下、個別の例を挙げる。

例)「いらっしゃる」「なさる」「くださる」「いただく」「申し上げる」などの動詞

・「～れる」「～られる」など、尊敬の助動詞がついているもの

・「お/ご～になる」「お/ご～する」などの複合形、「お宅」「ご立派」「お美しい」「ごゆっくり」「おりこうさん」など名詞・形容詞・形容動詞・副詞に「お/ご」がついているもの

・「方」「さま」「わたくしども」などの尊敬や謙譲の意を持つ語彙

・場所や人を示す指示詞の「こちら」「そちら」「あちら」「どちら」「どなた」

「P」: Polite form

「です/ます」体やその活用形を含む発話と、初対面会話冒頭の挨拶部分とする。その他の例を挙げる。

例)一語文だが、「BF01さん。」というように、人の名前に「さん」がついているもの

・「はじめまして」「こんにちは」などの初対面冒頭の挨拶部分

「N」: Non Polite form

「だ/である」体やその活用形を含む発話である。「A どうか。」「A どうか B。」などについては、発話文中に、これらの他に丁寧度が判断できるようなマーカーが無い場合、「A といいますか。」「A といいますか B。」という言い方もありうる中で、当該の形式が採られているということを考慮して「N」とする。

「NM」: No-Marker

発話文中に丁寧度を示すマーカーのない発話である。典型的なものでは、あいづち詞、応答詞がこれに当たる。また、「渋谷はもう全然。」という発話文などは、丁寧度を示すマーカーがない。ここでは、こうしたものをNMとした。「やはり」「やっぱり」など、音韻の添加、脱落などの音声的な側面とかかわるものは、ここでは、「やっぱり」のほうが「やはり」よりも丁寧だという捉え方はせず、丁寧度を示すマーカーがないと判断し、「NM」とした。以下に個別の例を挙げる。

- ・「はい」「ええ」などのあいづち詞
- ・応答の場合でも、「はい」「ええ」「うん」は「NM」とする。
- ・<笑い>。
- ・「大変」「英語の先生」など、丁寧度を示すマーカーのない1語文・1句文、体言止めの発話

2.2.2 文末

ここでいう「文末」は、発話文の最後の要素である。例えば、「そうなんですけど」「いらっしゃるの」という発話文の場合、文末は助詞である「けど」「の」の前の部分とし、前者は「P」、後者は「N」とコーディングする。「いらっしゃるんですか」は「ですか」がコーディングの対象とし、「P」となる。また、「～なんです、ええ。」「そうですか、へー。」のような場合は、「ええ。」「へー。」の前の部分をコーディングの対象とする。発話文が倒置の形をとっている場合は、本来文末に来る部分が対象となる。

コーディングの種類は以下の3つである。

「P」: Polite form

文末に「です/ます」体やその活用形が見られる発話である。例えば、「会社員をやっています」などである。「そうなんですけど」などのように末尾に助詞がついているものも、「文末」の定義に従って助詞を除いた部分をコーディングの対象とするため、「P」とコーディングする。また、「はじめまして」「こんにちは」などの初対面会話の冒頭に頻繁に見られる挨拶は、文末を「P」とする。

「N」: Non Polite form

「だ/である」体やその活用形を含む発話である。「～というか。」という発話は、「～といいですか。」という言い方もある中で、当該の形式が選択されたと考え、「N」とコーディングする。「という。」で終わっている場合は、発話文全体の場合と同様に、文脈や音から、スピーチレベルが有り得る発話かどうか判断する。

「NM」: No-Marker

中途終了型発話など、文末に丁寧度を示すマーカーがない発話である。「はい」「ええ」などのあいづち詞や、「はい」「ええ」「うん」といった応答詞、笑いなどが「NM」となる。音声や文脈を考慮し、話者が最後まで言い切っていないと捉えられた発話も「NM」となる。例えば、「なんかご職業はされてる...。」という発話は、形式的には終止形の形をとっているが、疑問文であるため、「～んですか。」といったことばが後に続くと考えられる。そこで、文末の丁寧度を示すマーカーはないと判断する。

以上の基準により、発話文全体と発話文末のスピーチレベルについてコーディングを行った。

2.3 一致度 (Cohen's Kappa) の算出

全 1317 発話文のうち、約 10% にあたる 133 発話文についてコーディングの一致率を求めた。冒頭の発話文には主に挨拶が含まれるため一致率が高くなると考えられたので、年齢と性別の組み合わせが異なる 6 通りの会話のうち、最後の部分の 21-23 発話文をサンプルとした。一致率の算出は本稿執筆者のうち 4 人で分担し、それぞれ、自分が1次コーディングを担当していない会話のセカンドコーダーとなった。

現段階でのコーディング一致率は、「発話文全体」が $k=0.894$ 、「発話文末」が $k=0.857$ だった。

2.4 結果

以下に、男性ベースの初対面 2 者間会話における、各項目の頻度と割合を求めた結果を示す。総発話文数は 1317 発話文である。

2.4.1 発話文全体のスピーチレベル

発話文全体におけるスピーチレベルの各項目の結果は以下の通りである。

表 1: 発話文全体におけるスピーチレベルの各項目の平均頻度 (ベースと対話者)

Average Frequency of Each Speech Level (Bases and Interlocutors)

Conversation	Super-Polite (S)		Polite (P)		Formal forms (S+P)		Non-polite (N)		No-marker (NM)	
	B	I	B	I	B	I	B	I	B	I
BM-OF	3.0	1.7	12.0	17.0	15.0	18.7	2.0	2.0	14.7	10.3
BM-OM	2.3	4.7	12.0	18.7	14.3	23.3	1.0	1.0	14.7	13.7
BM-SF	0.7	2.3	20.0	24.0	20.7	26.3	4.0	2.3	12.0	18.3
BM-SM	3.0	3.7	15.0	16.3	18.0	20.0	1.0	2.0	10.7	10.3
BM-YF	2.3	3.7	20.7	23.0	23.0	26.7	2.3	2.7	18.0	19.0
BM-YM	1.0	1.0	10.7	15.3	11.7	16.3	4.3	3.3	10.0	9.3

表 2: 発話文全体におけるスピーチレベルの各項目の割合 (ベース)

Percentage of Each Speech Level (Bases)

	Interlocutors					
	OF	OM	SF	SM	YF	YM
S (Super-polite)	9.4	7.6	1.8	10.1	4.9	3.8
P (Polite)	37.5	39.1	53.1	50.6	43.7	40.5
N (Non-Polite)	6.3	3.3	10.6	3.4	4.9	16.5
NM (No-marker)	45.8	47.8	31.9	36.0	38.0	38.0
S+P	46.9	46.7	47.8	60.7	48.6	44.3

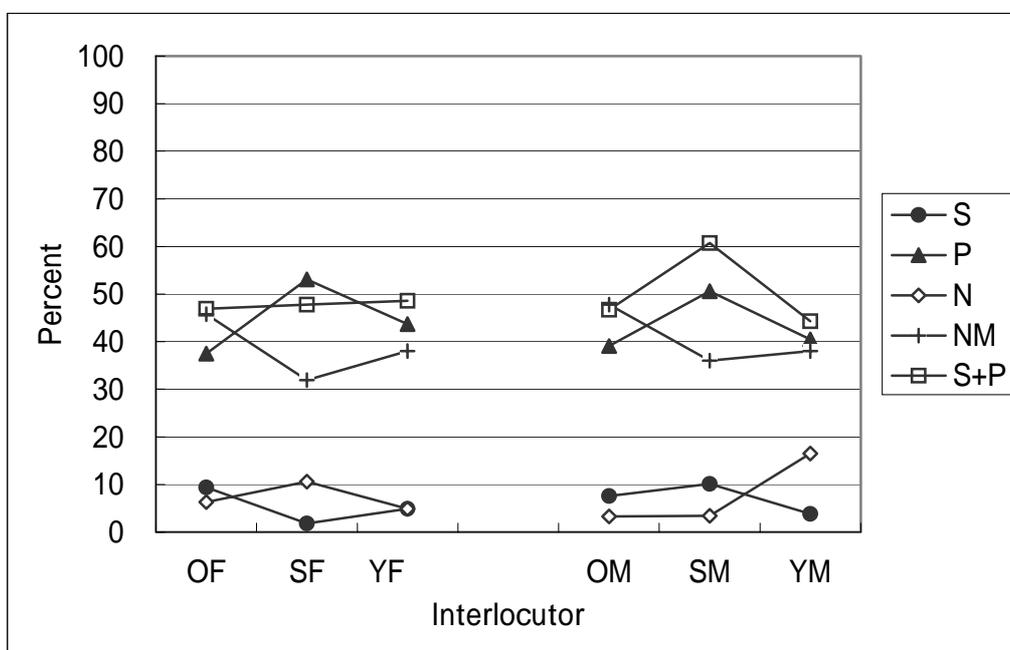


図 1: 発話文全体におけるスピーチレベルの各項目の割合 (ベース)

Percentage of Each Speech Level (Bases)

表 3: 発話文全体におけるスピーチレベルの各項目の割合 (対話者)

Percentage of Each Speech Level (Interlocutors)

	Speakers					
	OF	OM	SF	SM	YF	YM
S (Super-polite)	5.4	12.3	6.2	11.3	6.7	3.3
P (Polite)	54.8	49.1	63.7	50.5	42.3	51.1
N (Non-Polite)	6.5	2.6	6.2	6.2	4.9	11.1
NM (No-marker)	33.3	36.0	48.7	32.0	35.0	31.1
S+P	60.2	61.4	53.0	61.9	49.1	29.0

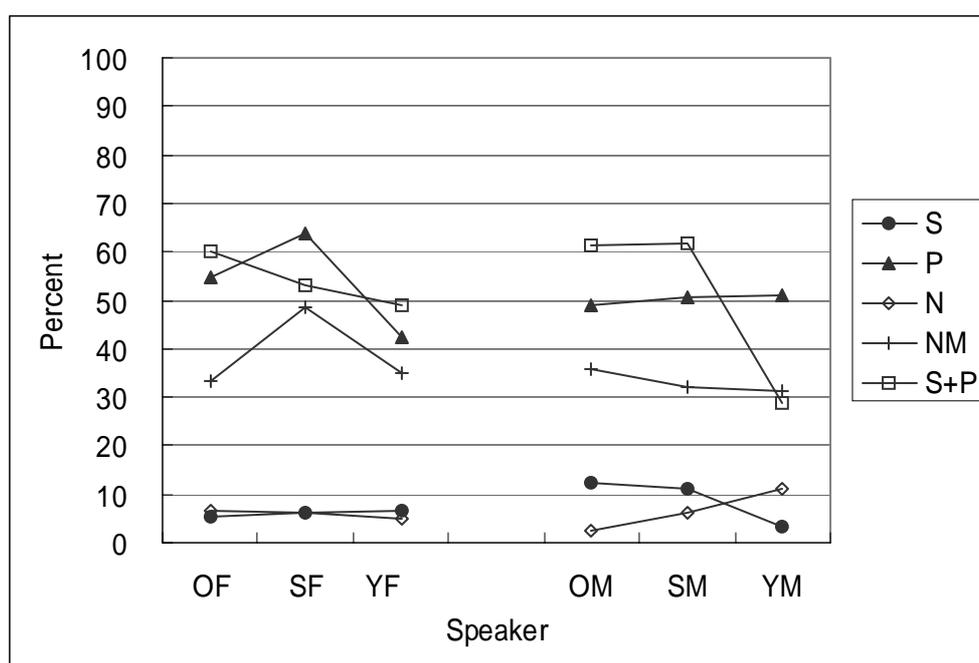


図 2: 発話文全体におけるスピーチレベルの各項目の割合 (対話者)

Percentage of Each Speech Level (Interlocutors)

結果を簡単にまとめると、発話文全体のスピーチレベルは、「S」が 5% から 10% 程度、「P」が 30% 後半から 60% 程度、「N」が 3% から 10% 程度、「NM」が 30% から 50% 近くとなっている。宇佐美 (2002) で示された結果に比べ、「P」の割合がやや低く、「NM」の割合がやや高い傾向を示している。

2.4.2 発話文末のスピーチレベル

発話文末におけるスピーチレベルの各項目の結果は以下の通りである。

表 4: 発話文末におけるスピーチレベルの各項目の平均頻度 (ベースと対話者)

Average Frequency of Each Speech Level (Bases and Interlocutors)

Conversation	Polite (P)		Non-polite (N)		No-marker (NM)	
	B	I	B	I	B	I
BM-OF	11.0	17.0	3.0	1.3	15.3	12.7
BM-OM	13.0	22.7	1.3	0.3	16.3	14.7
BM-SF	19.3	23.3	3.3	2.7	15.0	23.7
BM-SM	16.3	17.7	1.3	1.3	12.0	13.3
BM-YF	20.3	24.3	2.0	3.0	21.0	21.0
BM-YM	11.0	13.7	3.3	3.0	11.3	12.3

表 5: 発話文末におけるスピーチレベルの各項目の割合 (ベース)

Percentage of Sentence Final Speech Level (Bases)

	Interlocutors					
	OF	OM	SF	SM	YF	YM
P (Polite)	34.4	42.4	51.3	55.1	43.0	41.8
N (Non-Polite)	9.4	4.3	8.8	4.5	4.2	12.7
NM (No-marker)	47.9	53.3	39.8	40.4	44.4	43.0

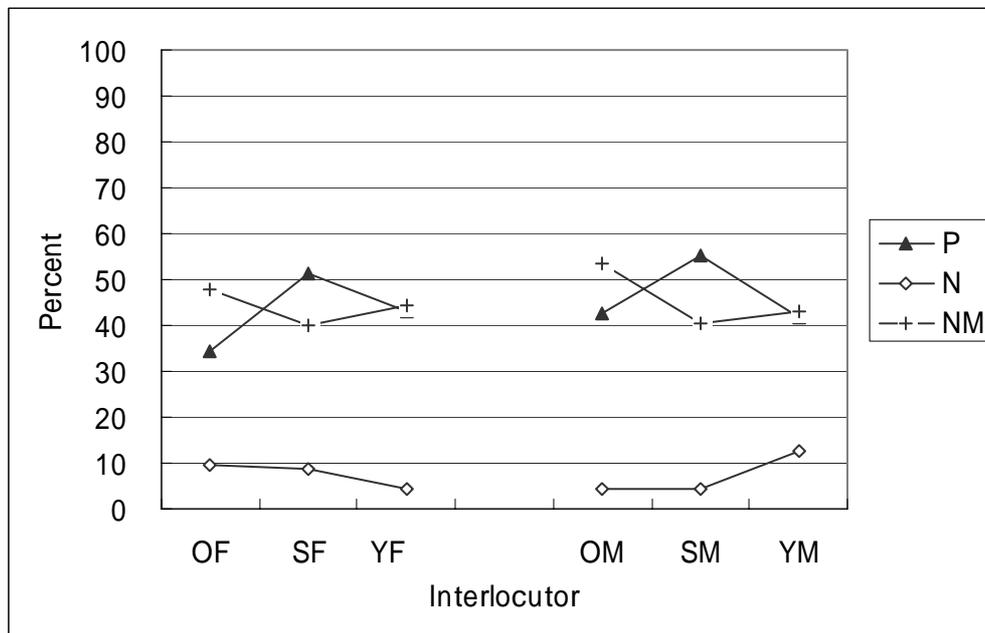


図 3: 発話文末におけるスピーチレベルの各項目の割合 (ベース)

Percentage of Sentence Final Speech Level (Bases)

表 6: 発話文末におけるスピーチレベルの各項目の割合 (対話者)

Percentage of Sentence Final Speech Level (Interlocutors)

	Speakers					
	OF	OM	SF	SM	YF	YM
P (Polite)	54.8	59.6	61.9	54.6	44.8	45.6
N (Non-Polite)	4.3	0.9	7.1	4.1	5.5	10.0
NM (No-marker)	40.9	38.6	62.8	41.2	38.7	41.1

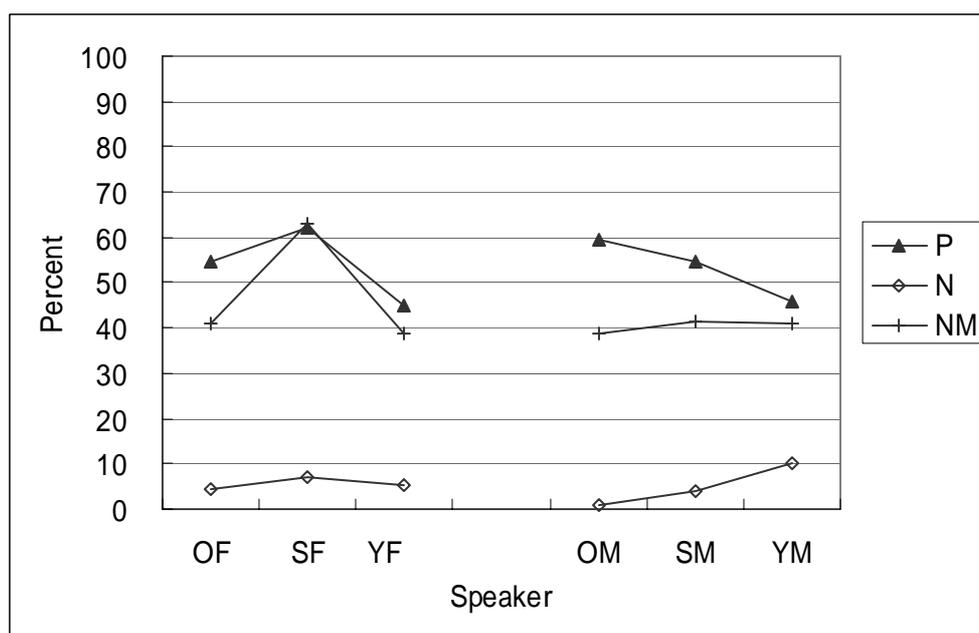


図 4: 発話文末におけるスピーチレベルの各項目の割合 (対話者)

Percentage of Sentence Final Speech Level (Interlocutors)

結果を簡単にまとめると、発話文末のスピーチレベルは、「P」が30%半ばから60%程度、「N」が4%から10%程度、「NM」が40%から60%近くとなっている。こちらも、宇佐美(2002)で示された結果に比べ、「P」の割合がやや低く、「NM」の割合がやや高い傾向を示していた。

3. 接頭辞「お」「ご」の付く語の頻度と割合

接頭辞として「お」「ご」が付くことは、語彙レベルにおいて、丁寧度を示すマーカーになる。Usami (2002) では、発話文全体に現れる言語形式を、「S (Super-polite)」「P (Polite)」「N (Non-polite)」「NM (No-marker)」の4つにコーディングし、「お」「ご」の付く名詞・形容詞などは、尊敬語や謙譲語とともに「S」のカテゴリーに入っている。しかし、「お茶」のように「お」をつける方が一般的な語もあるため、「お」や「ご」の付く語を一律に扱っても問題がないかどうか、コーディングを考えると判断に迷う事がある。また、「お仕事」はよく聞くが「ご授業」とはあまり言わない。

そこで本稿では、実際のどのような語に「お」「ご」が付いて現れているか、その頻度と割合を求めた。この要素から基本状態を調べることは、語彙レベルでのスピーチレベルの現れ方を探る手がかりになると考える。

3.1 データ

初対面 2 者間男性ベース 18 会話に加え、初対面 2 者間女性ベース 72 会話の冒頭の 3 分間をデータとして用いた。これは男性ベースデータと同様のやり方で採集され、宇佐美(1997)に基づいて文字化されたデータである。女性ベース 72 会話についての実験計画やデータについての詳しい情報は、Usami(2002)を参照されたい。総発話文数は 8730 発話文である。

3.2 コーディング

「お宅」「ご立派」「おいしい」「ごゆっくり」「おりこうさん」など、名詞・形容詞・形容動詞・副詞に「お/ご」がついているものを対象とした。

3.3 結果

表 7 に、「お」「ご」の付く語の種類と頻度・割合、また表 8 に、各会話における出現分布を示す。

表 7: 「お」「ご」の付く語の使用の割合

語彙	ベース		対話者		全体	
	頻度	割合	頻度	割合	頻度	割合
お仕事	5	0.12%	10	0.23%	15	0.17%
お名前	3	0.07%	6	0.14%	9	0.10%
お顔	3	0.07%	3	0.07%	6	0.07%
お子さん	2	0.05%	4	0.09%	6	0.07%
ご職業	3	0.07%	1	0.02%	4	0.05%
お住まい	3	0.07%	1	0.02%	4	0.05%
ご専門	1	0.02%	2	0.05%	3	0.03%
お子様	0	0.00%	3	0.07%	3	0.03%
お勤め	1	0.02%	1	0.02%	2	0.02%
お話	1	0.02%	1	0.02%	2	0.02%
お家	1	0.02%	1	0.02%	2	0.02%
お電話	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お茶	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お年	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お姉さま	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お兄ちゃん	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お酒	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お付き合い	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お詳しい	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お休み	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
ご本人	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お墓	1	0.02%	0	0.00%	1	0.01%
お友達	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
お盆	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
お忙しく	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%

おちょうし	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
お酒	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
おじゃま	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
お客さん	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
お手伝い	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
ご出身	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
ご一緒	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
ご在職	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
ご先祖	0	0.00%	1	0.02%	1	0.01%
	34	0.79%	45	1.02%	79	0.90%
総発話文数	4327		4403		8730	

パーセンテージは、それぞれの総発話文中に占める「お」「ご」のつく語の割合を示す。

表 8: 「お」「ご」の付く語の分布(ベース)

ベース	OF	OM	SF	SM	YF	YM
BF01				お仕事		
BF02		お年			お姉さま	
BF03					ご専門/お名前/ お顔	
BF04	お名前				お電話/お話	
BF05					ご本人	
BF06						
BF07						
BF08		お仕事			お仕事	お家
BF09			お仕事/ご職業	お茶		
BF10		お住まい		お子さん/お兄 ちゃん		お子さん
BF11	お顔(2)			お酒/お付き合い		
BF12						
JBM01	お住まい/ご職業		お詳しい			ご職業
JBM02	お名前/お休み			お勤め		
JBM03		お墓	お住まい	お仕事		

表 9: 「お」「ご」の付く語の分布(対話者)

対話者	OF	OM	SF	SM	YF	YM
BF01	お仕事		お仕事			
BF02						
BF03					お顔/ご専門(2)	
BF04						
BF05	お仕事/お名前		お友達			
BF06			お仕事			
BF07				お話		
BF08	ご在職/お顔			ご一緒		
BF09						
BF10	お盆/お忙しく	お子さん	お子様(3)/お住まい	お名前/お子さん/お仕事	お子さん/お仕事	お仕事
BF11	お顔			おちょうし/お酒	おじゃま	
BF12	お仕事					
JBM01	お子さん	ご職業		お仕事	お名前/お仕事	お客さん(2)
JBM02		ご出身		お勤め		
JBM03	お名前(2)		お名前	お手伝い	ご先祖/おうち	

表 7 に示したように、「お」「ご」の付く語が使われた割合は、会話全体の 1% 程度であることがわかる。名詞に付くものが多く、形容動詞・副詞に付いたものは見られなかった。初対面会話であるからか、「お仕事」「お名前」の頻度が高い。また、表 8 の分布を見ると、BF10 の対話者は 4 人が「お子さん」という語を使っている。BF10 の子どもが話題になったためではないかと考えられるが、このように、出現する語の傾向は、話題による部分が大きいのではないかと考えられる。

4. 助詞「ね」「よ」「よね」の頻度と割合

スピーチレベルをみるにあたっては、発話文末のコーディングの箇所で述べたように、発話文の最後の部分を対象としたため、「ね」「よ」といった助詞が現れているかどうかは扱わなかった。実際の会話における「ね」の使用の研究として、宇佐美(1997)がある。そこでは、職場での談話資料を用い、「ね」の本質的機能の探究ではなく、場面に応じた使い分けと、ポライトネス・ストラテジーとの関係进行分析するとともに、ディスコース・ポライトネスの観点から、「ね」の語用論的ポライトネスが、一定の談話全体の中で総体的にはいかなる役割を果たしているかを分析・考察している。このように、助詞も、DP 理論でいうところの、談話の基本状態の要素となりうる。

そこで、本稿でも、初対面 2 者間会話の基本状態を同定する要素として、助詞の「ね」と、それと共に共起することの多い「よ」に注目し、その生起頻度と割合を求めた。この要素から基本状態を調べることによって、文末のスピーチレベルとの関係を探る手がかりとしたい。宇佐美(1997)にあるように、同じ「ね」でも談話によって機能は違うため、一概には扱い難いが、ここでは資料的意味という点から、それらの分布を示す。

4.1 データ

3 節と同じように、初対面 2 者間会話女性ベース 72 会話・男性ベース 18 会話、各 3 分間を用いた。総発話文数は 8730 発話文である。

4.2 コーディング

「ね」「よ」をそれぞれ別個で数えると、「よね」が現れた発話は二重に数えられてしまうため、本稿では、「ね」「よ」「よね」の 3 つのタイプを扱った。「ねー、あれなんですけど。」というように、ことばの後に続くものではない「ね」「よ」は、数えなかった。また、「###ねー。」のように、「ね」「よ」の前に聞き取れない部分が多い場合は、助詞が単語の一部かの判断がしにくいため、対象からは外した。頻度は、発話文ごとの数と延べ数の 2 つを数えた。例えば「ですからね、それはね。」というように対象とした助詞が一発話文内に何回か出ている場合は、発話文ごとの数は 1、延べ数は 2 とした。

4.3 結果

以下に、「ね」「よ」「よね」の頻度と割合を、ベースの発話・対話者の発話・ベースと対話者の発話(会話全体における生起の頻度と割合)の 3 つの観点に分けて示す。

表 10: 終助詞「ね」の生起頻度と割合(ベース)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合																
BF01	15	28.8%	16	30.8%	11	26.8%	11	26.8%	6	12.5%	6	12.5%	7	14.0%	7	14.0%	4	8.9%	4	8.9%	3	8.3%	3	8.3%
BF02	8	10.5%	8	10.5%	17	30.9%	18	32.7%	10	21.3%	12	25.5%	8	14.3%	12	21.4%	11	14.1%	12	15.4%	22	36.1%	32	52.5%
BF03	4	10.0%	4	10.0%	7	15.2%	8	17.4%	12	30.0%	13	32.5%	11	25.6%	12	27.9%	7	11.3%	8	12.9%	2	6.7%	3	10.0%
BF04	2	5.6%	3	8.3%	9	22.5%	9	22.5%	5	13.5%	5	13.5%	7	25.0%	7	25.0%	4	8.2%	4	8.2%	8	12.5%	8	12.5%
BF05	5	14.7%	6	17.6%	11	14.5%	11	14.5%	5	15.6%	5	15.6%	6	11.3%	7	13.2%	9	22.0%	10	24.4%	5	8.8%	5	8.8%
BF06	10	20.4%	11	22.4%	16	25.8%	20	32.3%	9	20.9%	16	37.2%	11	21.6%	13	25.5%	9	17.0%	11	20.8%	9	15.3%	9	15.3%
BF07	8	17.4%	8	17.4%	5	14.3%	5	14.3%	11	22.4%	11	22.4%	8	18.6%	8	18.6%	9	22.5%	9	22.5%	3	5.3%	3	5.3%
BF08	1	2.3%	1	2.3%	4	7.7%	4	7.7%	6	14.0%	7	16.3%	7	11.9%	7	11.9%	6	10.0%	8	13.3%	4	5.3%	4	5.3%
BF09	11	18.3%	12	20.0%	5	8.2%	5	8.2%	7	11.1%	8	12.7%	7	12.1%	8	13.8%	4	5.6%	4	5.6%	4	6.3%	4	6.3%
BF10	8	12.9%	8	12.9%	12	21.1%	12	21.1%	14	21.5%	16	24.6%	14	19.7%	17	23.9%	9	12.7%	13	18.3%	8	15.7%	9	17.6%
BF11	9	15.5%	11	19.0%	3	6.0%	3	6.0%	6	10.5%	6	10.5%	8	16.7%	7	14.6%	9	12.5%	10	13.9%	2	3.7%	3	5.6%
BF12	12	21.4%	14	25.0%	13	25.0%	13	25.0%	7	21.2%	7	21.2%	10	40.0%	11	44.0%	15	35.7%	20	47.6%	7	16.7%	7	16.7%
JBM01	5	14.3%	5	14.3%	2	6.3%	2	6.3%	10	20.0%	10	20.0%	4	10.3%	4	10.3%	9	16.4%	9	16.4%	2	5.9%	2	5.9%
JBM02	3	9.1%	3	9.1%	4	18.2%	4	18.2%	0	0.0%	0	0.0%	4	15.4%	4	15.4%	5	13.5%	5	13.5%	2	10.0%	2	10.0%
JBM03	7	25.0%	10	35.7%	5	13.2%	6	15.8%	5	14.3%	11	31.4%	3	12.5%	3	12.5%	9	18.0%	9	18.0%	4	16.0%	4	16.0%
計	108	15.3%	120	16.9%	124	17.2%	131	18.2%	113	16.9%	133	19.9%	115	17.1%	127	18.8%	119	14.4%	136	16.5%	85	11.6%	98	13.4%

表 11: 終助詞「ね」の生起頻度と割合 (対話者)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合
BF01	5	10.2%	6	12.2%	16	24.6%	17	26.2%	10	20.8%	12	25.0%	11	21.2%	23	44.2%	9	16.1%	9	16.1%	3	6.4%	3	6.4%
BF02	7	10.8%	8	12.3%	12	31.6%	15	39.5%	7	14.9%	11	23.4%	13	25.5%	33	64.7%	7	10.1%	7	10.1%	2	9.5%	2	9.5%
BF03	7	14.0%	10	20.0%	13	27.1%	15	31.3%	2	5.0%	4	10.0%	4	12.5%	4	12.5%	5	10.4%	5	10.4%	2	8.0%	3	12.0%
BF04	5	19.2%	5	19.2%	13	29.5%	18	40.9%	5	13.5%	5	13.5%	5	22.7%	6	27.3%	5	14.3%	5	14.3%	7	15.6%	7	15.6%
BF05	1	2.6%	1	2.6%	18	24.7%	23	31.5%	5	15.6%	5	15.6%	14	23.3%	17	28.3%	7	14.9%	7	14.9%	3	4.4%	3	4.4%
BF06	4	8.9%	4	8.9%	22	30.6%	24	33.3%	7	16.3%	7	16.3%	12	27.9%	14	32.6%	2	6.1%	2	6.1%	11	20.8%	11	20.8%
BF07	4	8.5%	5	10.6%	10	22.7%	10	22.7%	5	10.2%	5	10.2%	11	39.3%	11	39.3%	4	12.5%	4	12.5%	2	3.1%	3	4.6%
BF08	4	7.1%	4	7.1%	3	5.9%	5	9.8%	10	23.3%	10	23.3%	15	26.8%	16	28.6%	4	7.7%	5	9.6%	9	11.7%	9	11.7%
BF09	18	25.7%	21	30.0%	10	16.1%	10	16.1%	9	14.3%	9	14.3%	15	29.4%	15	29.4%	10	12.8%	10	12.8%	18	22.8%	18	22.8%
BF10	12	14.3%	12	14.3%	8	15.1%	8	15.1%	3	4.6%	3	4.6%	15	21.1%	17	23.9%	8	10.5%	8	10.5%	3	5.5%	5	9.1%
BF11	15	20.5%	16	21.9%	7	13.5%	7	13.5%	12	21.1%	17	29.8%	16	31.4%	19	37.3%	16	21.6%	16	21.6%	8	15.4%	8	15.4%
BF12	16	25.0%	18	28.1%	13	25.5%	15	29.4%	8	24.2%	9	27.3%	16	38.1%	25	59.5%	7	17.9%	7	17.9%	9	15.0%	9	15.0%
JBM01	10	33.3%	12	40.0%	5	13.2%	7	18.4%	3	6.0%	4	8.0%	5	13.9%	6	16.7%	3	5.4%	3	5.4%	3	9.4%	4	12.5%
JBM02	1	2.9%	1	2.9%	8	20.0%	10	25.0%	6	21.4%	6	21.4%	6	18.8%	6	18.8%	3	6.0%	3	6.0%	5	16.7%	5	16.7%
JBM03	3	10.7%	5	17.9%	9	25.0%	17	47.2%	5	14.3%	5	14.3%	4	13.8%	4	13.8%	14	24.6%	14	24.6%	2	7.1%	2	7.1%
計	112	14.7%	128	16.8%	167	21.8%	201	26.2%	97	14.5%	112	16.7%	162	24.7%	216	32.9%	104	13.0%	105	13.1%	87	11.8%	92	12.5%

表 12: 終助詞「ね」の生起頻度と割合(ベースと対話者)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合																				
BF01	20	19.8%	22	21.8%	27	25.5%	28	26.4%	16	15.5%	18	17.5%	18	17.6%	30	29.4%	13	12.9%	13	12.9%	6	7.2%	6	7.2%
BF02	15	10.6%	16	11.3%	29	31.2%	33	35.5%	17	18.5%	23	25.0%	21	19.6%	45	42.1%	18	12.2%	19	12.9%	24	29.3%	34	41.5%
BF03	11	12.2%	14	15.6%	20	21.3%	23	24.5%	14	17.9%	17	21.8%	15	20.0%	16	21.3%	12	10.9%	13	11.8%	4	7.3%	6	10.9%
BF04	7	11.3%	8	12.9%	22	26.2%	27	32.1%	10	14.1%	10	14.1%	12	24.0%	13	26.0%	9	10.7%	9	10.7%	15	13.8%	15	13.8%
BF05	6	8.2%	7	9.6%	29	19.5%	34	22.8%	10	13.5%	10	13.5%	20	17.7%	24	21.2%	16	18.2%	17	19.3%	8	6.4%	8	6.4%
BF06	14	14.9%	15	16.0%	38	28.4%	44	32.8%	16	21.9%	23	31.5%	23	24.5%	27	28.7%	11	12.8%	13	15.1%	20	17.9%	20	17.9%
BF07	12	12.9%	13	14.0%	15	19.0%	15	19.0%	16	20.0%	16	20.0%	19	26.8%	19	26.8%	13	18.1%	13	18.1%	5	4.1%	6	4.9%
BF08	5	5.1%	5	5.1%	7	6.8%	9	8.7%	16	19.8%	17	21.0%	22	19.1%	23	20.0%	10	8.9%	13	11.6%	13	8.5%	13	8.5%
BF09	29	22.3%	33	25.4%	15	12.2%	15	12.2%	16	13.4%	17	14.3%	22	20.2%	23	21.1%	14	9.4%	14	9.4%	22	15.4%	22	15.4%
BF10	20	13.7%	20	13.7%	20	18.2%	20	18.2%	17	13.5%	19	15.1%	29	20.4%	34	23.9%	17	11.6%	21	14.3%	11	10.4%	14	13.2%
BF11	24	18.3%	27	20.6%	10	9.8%	10	9.8%	18	14.8%	23	18.9%	24	24.2%	26	26.3%	25	17.1%	26	17.8%	10	9.4%	11	10.4%
BF12	28	23.3%	32	26.7%	26	25.2%	28	27.2%	15	21.7%	16	23.2%	26	38.8%	36	53.7%	22	27.2%	27	33.3%	16	15.7%	16	15.7%
JBM01	15	23.1%	17	26.2%	7	10.0%	9	12.9%	13	12.5%	14	13.5%	9	12.0%	10	13.3%	12	10.8%	12	10.8%	5	7.6%	6	9.1%
JBM02	4	5.9%	4	5.9%	12	19.4%	14	22.6%	6	8.3%	6	8.3%	10	17.2%	10	17.2%	8	9.2%	8	9.2%	7	14.0%	7	14.0%
JBM03	10	17.9%	15	26.8%	14	18.9%	23	31.1%	10	11.6%	16	18.6%	7	13.2%	7	13.2%	23	21.5%	23	21.5%	6	11.3%	6	11.3%
計	220	15.0%	248	16.9%	291	19.6%	332	22.3%	210	15.6%	245	18.1%	277	20.8%	343	25.8%	223	13.7%	241	14.8%	172	11.7%	190	13.0%

「文」は発話文単位で、「延べ」は延べ数で数えた数値である。

表 13: 終助詞「よ」の生起頻度と割合(ベース)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合																				
BF01	6	11.5%	6	11.5%	3	7.3%	3	7.3%	3	6.3%	3	6.3%	4	8.0%	4	8.0%	1	2.2%	1	2.2%	0	0.0%	0	0.0%
BF02	4	5.3%	4	5.3%	6	10.9%	6	10.9%	8	17.0%	8	17.0%	3	5.4%	3	5.4%	9	11.5%	9	11.5%	10	16.4%	11	18.0%
BF03	0	0.0%	0	0.0%	3	6.5%	3	6.5%	4	10.0%	4	10.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.3%	1	3.3%
BF04	7	19.4%	7	19.4%	3	7.5%	3	7.5%	2	5.4%	2	5.4%	4	14.3%	4	14.3%	5	10.2%	6	12.2%	10	15.6%	10	15.6%
BF05	1	2.9%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	7.3%	3	7.3%	0	0.0%	0	0.0%
BF06	2	4.1%	2	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	7.5%	4	7.5%	2	3.4%	2	3.4%
BF07	2	4.3%	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%	6	12.2%	6	12.2%	1	2.3%	1	2.3%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.5%	2	3.5%
BF08	0	0.0%	0	0.0%	1	1.9%	1	1.9%	2	4.7%	2	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	1	1.7%	0	0.0%	0	0.0%
BF09	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	4.8%	3	4.8%	3	5.2%	3	5.2%	2	2.8%	2	2.8%	1	1.6%	1	1.6%
BF10	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	1	1.8%	2	3.1%	2	3.1%	2	2.8%	4	5.6%	1	1.4%	1	1.4%	2	3.9%	3	5.9%
BF11	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	1.4%	2	3.7%	2	3.7%
BF12	1	1.8%	1	1.8%	3	5.8%	3	5.8%	2	6.1%	2	6.1%	0	0.0%	0	0.0%	4	9.5%	5	11.9%	3	7.1%	3	7.1%
JBM01	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
JBM02	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.0%	1	5.0%
JBM03	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.6%	3	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.0%	2	4.0%	1	4.0%	1	4.0%
計	23	3.2%	23	3.2%	20	2.8%	20	2.8%	36	5.4%	36	5.4%	17	2.5%	19	2.8%	33	4.0%	35	4.2%	35	4.8%	37	5.1%

表 14: 終助詞「よ」の生起頻度と割合(対話者)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合
BF01	1	2.0%	1	2.0%	6	9.2%	6	9.2%	5	10.4%	5	10.4%	11	21.2%	11	21.2%	3	5.4%	3	5.4%	1	2.1%	1	2.1%
BF02	0	0.0%	0	0.0%	5	13.2%	5	13.2%	0	0.0%	0	0.0%	8	15.7%	8	15.7%	2	2.9%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
BF03	0	0.0%	0	0.0%	4	8.3%	4	8.3%	2	5.0%	2	5.0%	3	9.4%	3	9.4%	1	2.1%	1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%
BF04	1	3.8%	1	3.8%	3	6.8%	3	6.8%	4	10.8%	4	10.8%	2	9.1%	2	9.1%	2	5.7%	2	5.7%	4	8.9%	4	8.9%
BF05	0	0.0%	0	0.0%	4	5.5%	4	5.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	5.0%	1	1.7%	2	4.3%	2	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
BF06	0	0.0%	0	0.0%	5	6.9%	5	6.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.7%	2	4.7%	0	0.0%	0	0.0%	6	11.3%	6	11.3%
BF07	0	0.0%	0	0.0%	1	2.3%	1	2.3%	1	2.0%	1	2.0%	1	3.6%	1	3.6%	1	3.1%	1	3.1%	2	3.1%	2	3.1%
BF08	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.7%	2	4.7%	2	3.6%	2	3.6%	2	3.8%	2	3.8%	2	2.6%	2	2.6%
BF09	1	1.4%	1	1.4%	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	6	7.7%	6	7.7%	4	5.1%	4	5.1%
BF10	3	3.6%	3	3.6%	2	3.8%	2	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	9	12.7%	10	14.1%	5	6.6%	5	6.6%	1	1.8%	1	1.8%
BF11	5	6.8%	5	6.8%	3	5.8%	3	5.8%	1	1.8%	1	1.8%	5	9.8%	5	9.8%	2	2.7%	2	2.7%	3	5.8%	3	5.8%
BF12	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	1	3.0%	1	3.0%	11	26.2%	11	26.2%	3	7.7%	4	10.3%	1	1.7%	1	1.7%
JBM01	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	1	1.8%	0	0.0%	0	0.0%
JBM02	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	14.3%	4	14.3%	0	0.0%	0	0.0%	1	2.0%	1	2.0%	3	10.0%	4	13.3%
JBM03	0	0.0%	0	0.0%	1	2.8%	1	2.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.6%	1	3.6%
計	11	1.4%	11	1.4%	36	4.7%	36	4.7%	20	3.0%	20	3.0%	58	8.8%	57	8.7%	31	3.9%	32	4.0%	28	3.8%	29	3.9%

表 15: 終助詞「よ」の生起頻度と割合(ベースと対話者)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合
BF01	7	6.9%	7	6.9%	9	8.5%	9	8.5%	8	7.8%	8	7.8%	15	14.7%	15	14.7%	4	4.0%	4	4.0%	1	1.2%	1	1.2%
BF02	4	2.8%	4	2.8%	11	11.8%	11	11.8%	8	8.7%	8	8.7%	11	10.3%	11	10.3%	11	7.5%	11	7.5%	10	12.2%	11	13.4%
BF03	0	0.0%	0	0.0%	7	7.4%	7	7.4%	6	7.7%	6	7.7%	3	4.0%	3	4.0%	1	0.9%	1	0.9%	1	1.8%	1	1.8%
BF04	8	12.9%	8	12.9%	6	7.1%	6	7.1%	6	8.5%	6	8.5%	6	12.0%	6	12.0%	7	8.3%	8	9.5%	14	12.8%	14	12.8%
BF05	1	1.4%	1	1.4%	4	2.7%	4	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.7%	1	0.9%	5	5.7%	5	5.7%	0	0.0%	0	0.0%
BF06	2	2.1%	2	2.1%	5	3.7%	5	3.7%	0	0.0%	0	0.0%	2	2.1%	2	2.1%	4	4.7%	4	4.7%	8	7.1%	8	7.1%
BF07	2	2.2%	2	2.2%	1	1.3%	1	1.3%	7	8.8%	7	8.8%	2	2.8%	2	2.8%	1	1.4%	1	1.4%	4	3.3%	4	3.3%
BF08	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.0%	4	4.9%	4	4.9%	2	1.7%	2	1.7%	3	2.7%	3	2.7%	2	1.3%	2	1.3%
BF09	1	0.8%	1	0.8%	1	0.8%	1	0.8%	3	2.5%	3	2.5%	4	3.7%	4	3.7%	8	5.4%	8	5.4%	5	3.5%	5	3.5%
BF10	3	2.1%	3	2.1%	3	2.7%	3	2.7%	2	1.6%	2	1.6%	11	7.7%	14	9.9%	6	4.1%	6	4.1%	3	2.8%	4	3.8%
BF11	5	3.8%	5	3.8%	3	2.9%	3	2.9%	1	0.8%	1	0.8%	5	5.1%	5	5.1%	3	2.1%	3	2.1%	5	4.7%	5	4.7%
BF12	1	0.8%	1	0.8%	4	3.9%	4	3.9%	3	4.3%	3	4.3%	11	16.4%	11	16.4%	7	8.6%	9	11.1%	4	3.9%	4	3.9%
JBM01	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%	1	0.9%	0	0.0%	0	0.0%
JBM02	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	5.6%	4	5.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.1%	1	1.1%	4	8.0%	5	10.0%
JBM03	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	1	1.4%	3	3.5%	3	3.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.9%	2	1.9%	2	3.8%	2	3.8%
計	34	2.3%	34	2.3%	56	3.8%	56	3.8%	56	4.1%	56	4.1%	75	5.6%	76	5.7%	64	3.9%	67	4.1%	63	4.3%	66	4.5%

「文」は発話文単位で、「延べ」は延べ数で数えた数値である。

表 16:「よね」の生起頻度と割合(ベース)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合																				
BF01	2	3.8%	2	3.8%	5	12.2%	5	12.2%	10	20.8%	10	20.8%	4	8.0%	4	8.0%	4	8.9%	4	8.9%	2	5.6%	2	5.6%
BF02	1	1.3%	1	1.3%	3	5.5%	3	5.5%	3	6.4%	3	6.4%	1	1.8%	1	1.8%	5	6.4%	5	6.4%	1	1.6%	1	1.6%
BF03	6	15.0%	6	15.0%	3	6.5%	3	6.5%	4	10.0%	4	10.0%	3	7.0%	3	7.0%	2	3.2%	2	3.2%	3	10.0%	3	10.0%
BF04	1	2.8%	1	2.8%	2	5.0%	2	5.0%	5	13.5%	5	13.5%	4	14.3%	4	14.3%	1	2.0%	1	2.0%	2	3.1%	2	3.1%
BF05	1	2.9%	1	2.9%	2	2.6%	2	2.6%	1	3.1%	1	3.1%	3	5.7%	3	5.7%	4	9.8%	4	9.8%	0	0.0%	0	0.0%
BF06	6	12.2%	6	12.2%	1	1.6%	1	1.6%	0	0.0%	0	0.0%	7	13.7%	7	13.7%	4	7.5%	4	7.5%	11	18.6%	11	18.6%
BF07	2	4.3%	2	4.3%	1	2.9%	1	2.9%	4	8.2%	5	10.2%	3	7.0%	3	7.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.5%	2	3.5%
BF08	0	0.0%	0	0.0%	5	9.6%	5	9.6%	4	9.3%	4	9.3%	3	5.1%	3	5.1%	1	1.7%	1	1.7%	1	1.3%	1	1.3%
BF09	5	8.3%	5	8.3%	2	3.3%	2	3.3%	8	12.7%	9	14.3%	5	8.6%	5	8.6%	6	8.5%	6	8.5%	10	15.6%	10	15.6%
BF10	9	14.5%	9	14.5%	2	3.5%	2	3.5%	2	3.1%	2	3.1%	4	5.6%	4	5.6%	3	4.2%	3	4.2%	2	3.9%	2	3.9%
BF11	12	20.7%	12	20.7%	1	2.0%	1	2.0%	14	24.6%	14	24.6%	3	6.3%	3	6.3%	5	6.9%	5	6.9%	3	5.6%	4	7.4%
BF12	6	10.7%	7	12.5%	2	3.8%	2	3.8%	2	6.1%	2	6.1%	4	16.0%	4	16.0%	3	7.1%	3	7.1%	2	4.8%	2	4.8%
JBM01	1	2.9%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	1	1.8%	1	2.9%	1	2.9%
JBM02	1	3.0%	1	3.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.4%	2	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	11.5%	3	11.5%	0	0.0%	0	0.0%
JBM03	2	7.1%	2	7.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.0%	2	4.0%	3	7.9%	6	15.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
計	55	7.8%	56	7.9%	29	4.0%	29	4.0%	61	8.8%	63	9.1%	47	6.9%	50	7.3%	42	5.3%	42	5.3%	40	5.5%	41	5.6%

表 17:「よね」の生起頻度と割合(対話者)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合																				
BF01	1	2.0%	1	2.0%	3	4.6%	3	4.6%	9	18.8%	9	18.8%	1	1.9%	1	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.3%	2	4.3%
BF02	1	1.5%	1	1.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	6.4%	3	6.4%	0	0.0%	0	0.0%	3	4.3%	3	4.3%	0	0.0%	0	0.0%
BF03	7	14.0%	8	16.0%	1	2.1%	1	2.1%	11	27.5%	11	27.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	4.2%	2	4.2%	2	8.0%	2	8.0%
BF04	2	7.7%	2	7.7%	5	11.4%	6	13.6%	2	5.4%	2	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	6.7%	3	6.7%
BF05	3	7.7%	3	7.7%	12	16.4%	12	16.4%	8	25.0%	8	25.0%	1	1.7%	1	1.7%	5	10.6%	5	10.6%	2	2.9%	2	2.9%
BF06	5	11.1%	5	11.1%	10	13.9%	10	13.9%	1	2.3%	1	2.3%	3	7.0%	3	7.0%	3	9.1%	3	9.1%	4	7.5%	4	7.5%
BF07	4	8.5%	4	8.5%	3	6.8%	3	6.8%	2	4.1%	2	4.1%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	1	3.1%	2	3.1%	3	4.6%
BF08	0	0.0%	0	0.0%	5	9.8%	5	9.8%	3	7.0%	3	7.0%	1	1.8%	1	1.8%	4	7.7%	4	7.7%	1	1.3%	1	1.3%
BF09	4	5.7%	4	5.7%	5	8.1%	5	8.1%	6	9.5%	6	9.5%	1	2.0%	1	2.0%	5	6.4%	5	6.4%	7	8.9%	7	8.9%
BF10	7	8.3%	7	8.3%	7	13.2%	7	13.2%	5	7.7%	5	7.7%	2	2.8%	2	2.8%	9	11.8%	9	11.8%	1	1.8%	1	1.8%
BF11	9	12.3%	9	12.3%	0	0.0%	0	0.0%	9	15.8%	9	15.8%	5	9.8%	7	13.7%	1	1.4%	1	1.4%	2	3.8%	3	5.8%
BF12	6	9.4%	6	9.4%	4	7.8%	4	7.8%	1	3.0%	1	3.0%	6	14.3%	6	14.3%	7	17.9%	8	20.5%	8	13.3%	8	13.3%
JBM01	0	0.0%	0	0.0%	7	18.4%	7	18.4%	2	4.0%	2	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	7.1%	4	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
JBM02	1	2.9%	1	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	2	5.4%	2	5.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.1%	1	3.1%	2	6.7%	2	6.7%
JBM03	2	7.1%	2	7.1%	1	2.0%	1	2.0%	3	6.0%	3	6.0%	2	5.6%	2	5.6%	2	6.9%	2	6.9%	1	3.6%	1	3.6%
計	52	6.8%	53	7.0%	63	8.0%	64	8.1%	67	9.7%	67	9.7%	22	3.3%	24	3.6%	47	6.2%	48	6.3%	37	5.0%	39	5.3%

表 18:「よね」の生起頻度と割合(ベースと対話者)

	OF				OM				SF				SM				YF				YM			
	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合	文	割合	延べ	割合
BF01	3	3.0%	3	3.0%	8	7.5%	8	7.5%	19	18.4%	19	18.4%	5	4.9%	5	4.9%	4	4.0%	4	4.0%	4	4.8%	4	4.8%
BF02	2	1.4%	2	1.4%	3	3.2%	3	3.2%	6	6.5%	6	6.5%	1	0.9%	1	0.9%	8	5.4%	8	5.4%	1	1.2%	1	1.2%
BF03	13	14.4%	14	15.6%	4	4.3%	4	4.3%	15	19.2%	15	19.2%	3	4.0%	3	4.0%	4	3.6%	4	3.6%	5	9.1%	5	9.1%
BF04	3	4.8%	3	4.8%	7	8.3%	8	9.5%	7	9.9%	7	9.9%	4	8.0%	4	8.0%	1	1.2%	1	1.2%	5	4.6%	5	4.6%
BF05	4	5.5%	4	5.5%	14	9.4%	14	9.4%	9	12.2%	9	12.2%	4	3.5%	4	3.5%	9	10.2%	9	10.2%	2	1.6%	2	1.6%
BF06	11	11.7%	11	11.7%	11	8.2%	11	8.2%	1	1.4%	1	1.4%	10	10.6%	10	10.6%	7	8.1%	7	8.1%	15	13.4%	15	13.4%
BF07	6	6.5%	6	6.5%	4	5.1%	4	5.1%	6	7.5%	7	8.8%	3	4.2%	3	4.2%	1	1.4%	1	1.4%	4	3.3%	5	4.1%
BF08	0	0.0%	0	0.0%	10	9.7%	10	9.7%	7	8.6%	7	8.6%	4	3.5%	4	3.5%	5	4.5%	5	4.5%	2	1.3%	2	1.3%
BF09	9	6.9%	9	6.9%	7	5.7%	7	5.7%	14	11.8%	15	12.6%	6	5.5%	6	5.5%	11	7.4%	11	7.4%	17	11.9%	17	11.9%
BF10	16	11.0%	16	11.0%	9	8.2%	9	8.2%	7	5.6%	7	5.6%	6	4.2%	6	4.2%	12	8.2%	12	8.2%	3	2.8%	3	2.8%
BF11	21	16.0%	21	16.0%	1	1.0%	1	1.0%	23	18.9%	23	18.9%	8	8.1%	10	10.1%	6	4.1%	6	4.1%	5	4.7%	7	6.6%
BF12	12	10.0%	13	10.8%	6	5.8%	6	5.8%	3	4.3%	3	4.3%	10	14.9%	10	14.9%	10	12.3%	11	13.6%	10	9.8%	10	9.8%
JBM01	1	1.5%	1	1.5%	7	10.0%	7	10.0%	2	1.9%	2	1.9%	0	0.0%	0	0.0%	5	4.5%	5	4.5%	1	1.5%	1	1.5%
JBM02	2	2.9%	2	2.9%	0	0.0%	0	0.0%	4	4.6%	4	4.6%	0	0.0%	0	0.0%	4	6.9%	4	6.9%	2	4.0%	2	4.0%
JBM03	4	7.1%	4	7.1%	1	1.2%	1	1.2%	5	4.7%	5	4.7%	5	6.8%	8	10.8%	2	3.8%	2	3.8%	1	1.9%	1	1.9%
計	107	7.3%	109	7.4%	92	6.1%	93	6.2%	128	9.2%	130	9.4%	69	5.1%	74	5.5%	89	5.8%	90	5.8%	77	5.2%	80	5.5%

「文」は発話文単位で、「延べ」は延べ数で数えた数値である。

簡単に結果を述べると、まず、終助詞「ね」が生起しなかった会話はなかった。「ね」の割合は延べ数で見ると 2.9% から 59.5% と、個々の会話及び話者によって開きがあった。しかし、6 通りの会話の組み合わせごとに合計すると、どの会話の組み合わせも、「ね」の割合は 10% から 20% の範囲内である。終助詞「よ」が生起しない会話はいくつか見られた。生起の割合が 10% を超える会話は少ない。こちらも同じように合計すると、どの組み合わせも 10% 以下であった。「よね」の生起の割合は、0% から 25% と、個々の会話及び話者によって開きがあった。

5. おわりに

以上、スピーチレベル、接頭辞「お」「ご」の付く語、助詞「ね」「よ」「よね」という 3 つの要素から、日本人成人の初対面 2 者間会話における基本状態の数値を示した。本稿では、基礎的な数値を報告するのみにとどめたが、これが資料としての意義を持つと考える。本資料が、これからのポライトネス研究や談話研究への貢献となることを願う。

付記

本稿 2 節のスピーチレベルのコーディングには、10 名が携わった。本稿執筆者以外の作業者は以下の通りである。(50 音順)

李恩美*、金庚芬**、謝オン**、辛銀眞*、朴銀南*

参考文献

- 宇佐美まゆみ(1997)「「ね」のコミュニケーション機能とディスコース・ポライトネス」『女性のことば・職場編』現代日本語研究会編、ひつじ書房、241-269.
- 宇佐美まゆみ(1997)「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)の開発について」『日本人の談話行動のスクリプト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作』文部省科学研究費基盤研究(C)研究成果報告書、12-26.
- 宇佐美まゆみ(2001)「談話のポライトネス ポライトネスの談話理論構想」『談話のポライトネス』第7回国立国語研究所国際シンポジウム報告書、国立国語研究所編、凡人社、9-58頁
- 宇佐美まゆみ(2002)「連載:ポライトネス理論の展開」『月刊言語』Vol.31.(1月号から12月号)
- Usami, Mayumi 2002 *Discourse Politeness in Japanese Conversation: Some Implications for a Universal Theory of Politeness*. Hituzi Syobo.
- 宇佐美まゆみ(2003)「改訂版:基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」『多文化共生社会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的研究』(科学研究費補助金基盤研究(C)2:研究代表者 宇佐美まゆみ)研究成果報告書、4-25.

参考: 初対面 2 者間男性ベース日本語会話: フォローアップアンケートの結果 (JBM01-03)

スピーチレベルを考察するための参考として、初対面 2 者間男性ベース 18 会話のフォローアップアンケートの結果を以下に示す。

表 1. 相手の年齢をどのくらいだと思ったか

INTENDED PERCEPTION	BASE		INTERLOCUTOR	
	Mean	SD	Mean	SD
Interlocutor				
Older Female	4.33	0.58	1.67	0.58
Older Male	4.00	0.00	1.67	0.58
Older Interlocutors (Avg.)	4.17	0.29	1.67	0.58
Same-age Female	2.33	0.58	3.33	0.58
Same-age Male	2.67	0.58	2.00	0.00
Same-age Interlocutors (Avg.)	2.50	0.58	2.67	0.29
Younger Female	2.00	0.00	4.67	0.58
Younger Male	2.00	0.00	4.33	0.58
Younger Interlocutors (Avg.)	2.00	0.00	4.50	0.58

1: かなり年下 から 5: かなり年上

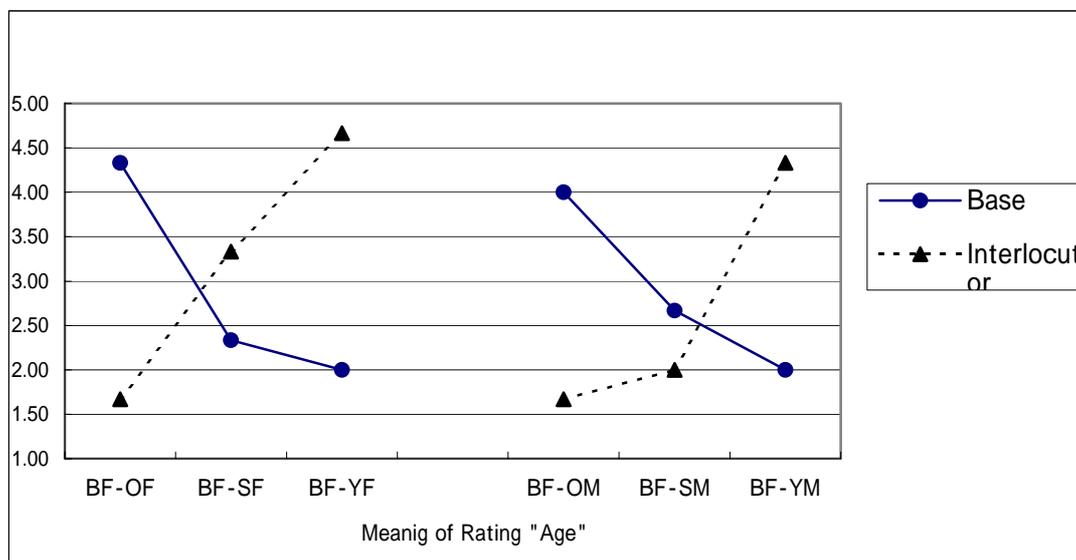


図 1. 相手の年齢をどのくらいだと思ったか、その平均

表 2.相手の社会的地位をどのくらいだと思ったか

INTENDED PERCEPTION	BASE		INTERLOCUTOR	
	Mean	SD	Mean	SD
Older Female	3.33	0.58	4.00	0.00
Older Male	3.33	0.58	2.33	0.58
Older Interlocutors (Avg.)	3.33	0.00	3.17	0.29
Same-age Female	3.00	0.00	3.67	0.58
Same-age Male	3.00	0.00	4.00	1.00
Same-age Interlocutors (Avg.)	3.00	0.00	3.83	0.79
Younger Female	3.00	0.00	4.33	0.58
Younger Male	3.00	0.00	4.00	1.00
Younger Interlocutors (Avg.)	3.00	0.00	4.17	0.79

1: かなり低い から 5: かなり高い

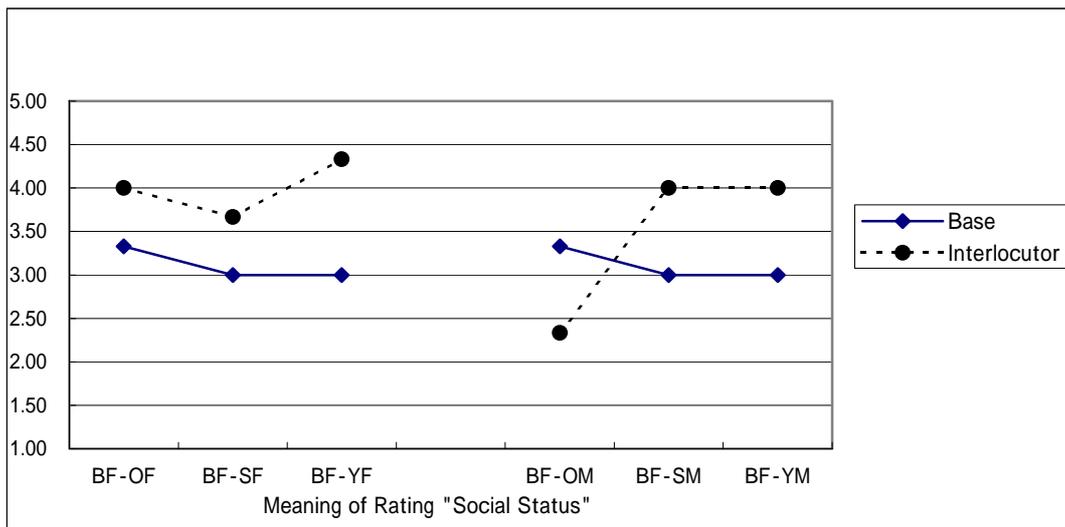


図 2. 相手の社会的地位をどう思ったか、その平均

表 3.相手の年齢と社会的地位の合計

INTENDED PERCEPTION	BASE		INTERLOCUTOR	
	Mean	SD	Mean	SD
Interlocutor				
Older Female	7.67	1.15	5.67	0.58
Older Male	7.33	0.58	4.00	1.00
Older Interlocutors (Avg.)	7.50	0.86	4.83	0.79
Same-age Female	5.33	0.58	7.00	0.00
Same-age Male	5.67	0.58	6.00	1.00
Same-age Interlocutors (Avg.)	5.50	0.58	6.50	0.50
Younger Female	5.00	0.00	9.00	1.00
Younger Male	5.00	0.00	8.33	1.53
Younger Interlocutors (Avg.)	5.00	0.00	8.67	1.26

2: かなり年下 + かなり低い から 10: かなり年上 + かなり高い

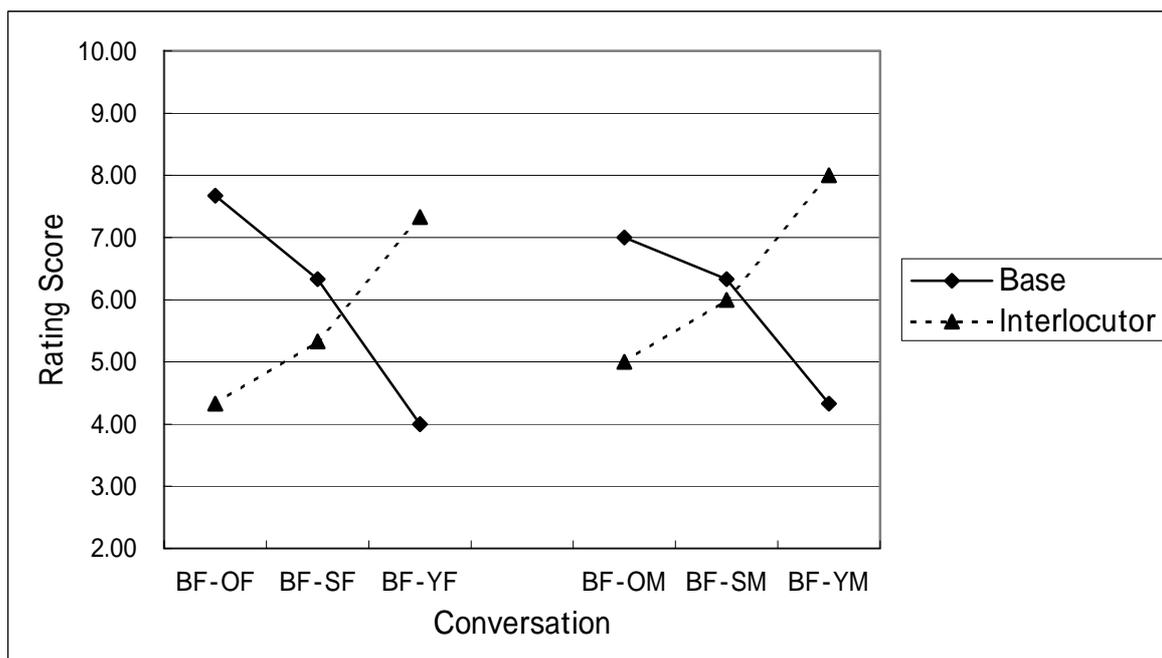


図 3. 相手の年齢と社会的地位の合計

表 4.相手の話し方や態度

Choice	BASE		INTERLOCUTOR	
	Freq.	Per.	Freq.	Per.
1 No impoliteness	17	94.4	14	77.8
2 Some impoliteness	1	5.6	4	22.2

表 5.会話の話しやすさ

INTENDED PERCEPTION	BASE		INTERLOCUTOR	
	Mean	SD	Mean	SD
Interlocutor				
Older Female	3.00	0.00	1.67	0.58
Older Male	1.67	0.58	2.33	1.15
Older Interlocutors (Avg.)	2.33	0.29	2.00	0.87
Same-age Female	2.00	1.00	1.67	0.58
Same-age Male	3.00	0.00	2.33	0.58
Same-age Interlocutors (Avg.)	2.50	0.50	2.00	0.58
Younger Female	2.33	0.58	2.67	1.15
Younger Male	1.67	0.58	2.33	1.15
Younger Interlocutors (Avg.)	3.33	0.58	2.50	1.15

1: とても話しやすかった から 5: とても話しにくかった

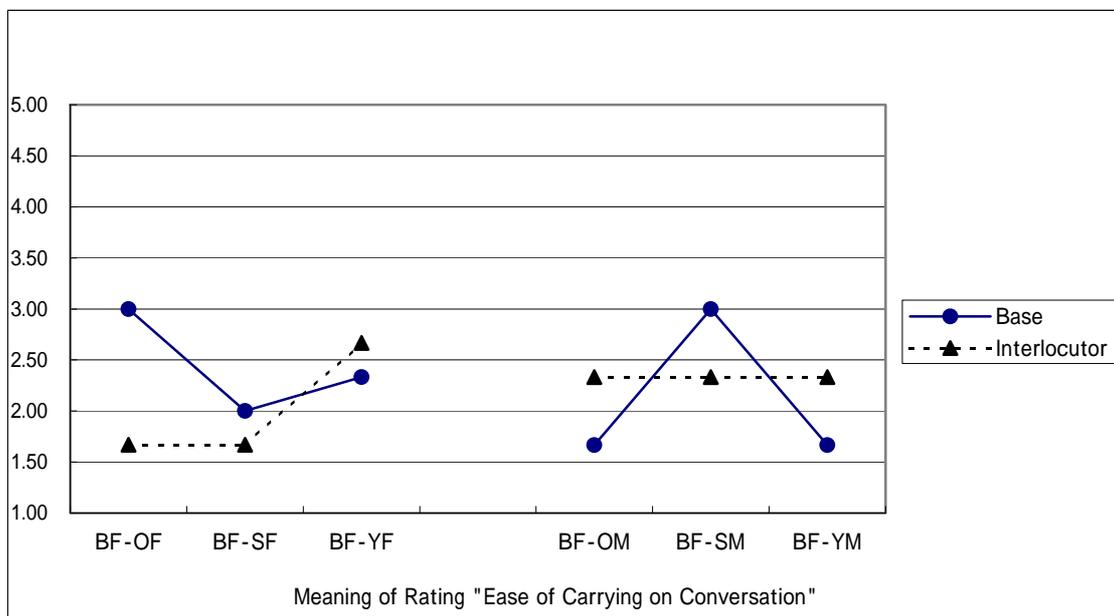


図 4. 会話の話しやすさの平均

表 6.話し方の自然さ

INTENDED PERCEPTION	BASE		INTERLOCUTOR	
	Mean	SD	Mean	SD
Older Female	3.00	0.00	2.33	0.58
Older Male	2.00	1.00	2.33	1.15
Older Interlocutors (Avg.)	2.50	0.50	2.33	0.87
Same-age Female	2.00	1.00	2.00	0.00
Same-age Male	3.00	0.00	2.67	1.15
Same-age Interlocutors (Avg.)	2.50	0.50	2.33	0.58
Younger Female	2.33	0.58	3.00	1.00
Younger Male	1.67	0.58	3.00	1.00
Younger Interlocutors (Avg.)	2.00	0.58	3.00	1.00

1: とても自然 2: かなり自然 3: 特に不自然ではない 4: あまり自然ではない 5: とても不自然

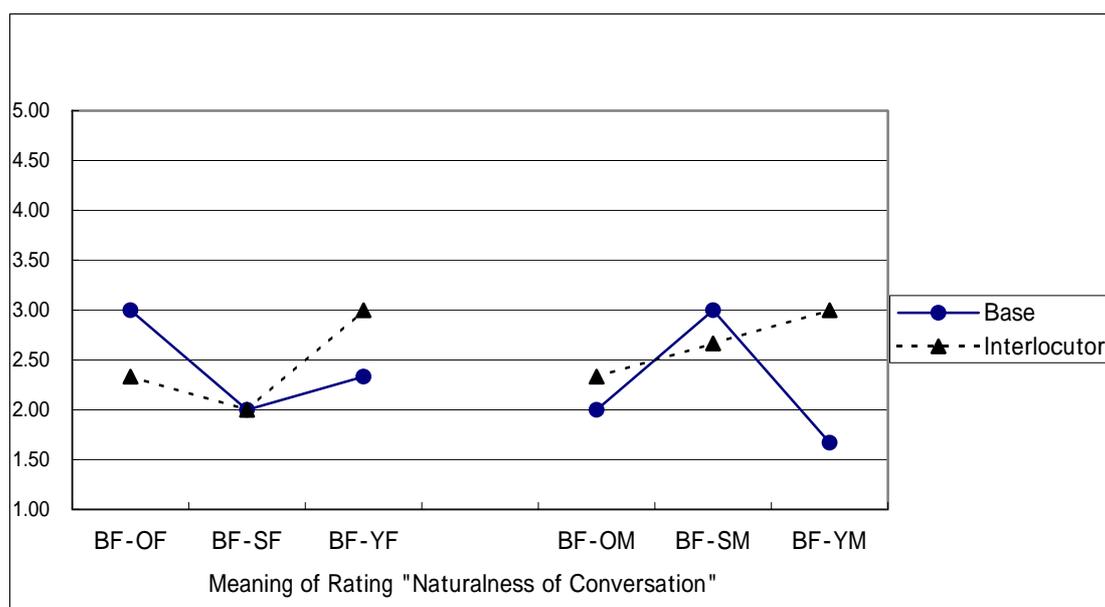


図 5. 話し方の自然さの平均

表 7. 録音を意識したか

INTENDED PERCEPTION	BASE		INTERLOCUTOR	
	Mean	SD	Mean	SD
Interlocutor				
Older Female	3.67	0.58	4.00	0.00
Older Male	3.67	0.58	4.00	0.00
Older Interlocutors (Avg.)	3.67	0.58	4.00	0.00
Same-age Female	3.67	0.58	3.67	0.58
Same-age Male	3.67	0.58	4.00	0.00
Same-age Interlocutors (Avg.)	3.67	0.58	3.83	0.29
Younger Female	3.67	0.58	3.67	0.58
Younger Male	3.67	0.58	2.33	1.15
Younger Interlocutors (Avg.)	3.67	0.58	3.00	0.87

1: 非常に意識した から 5: 全然意識しなかった

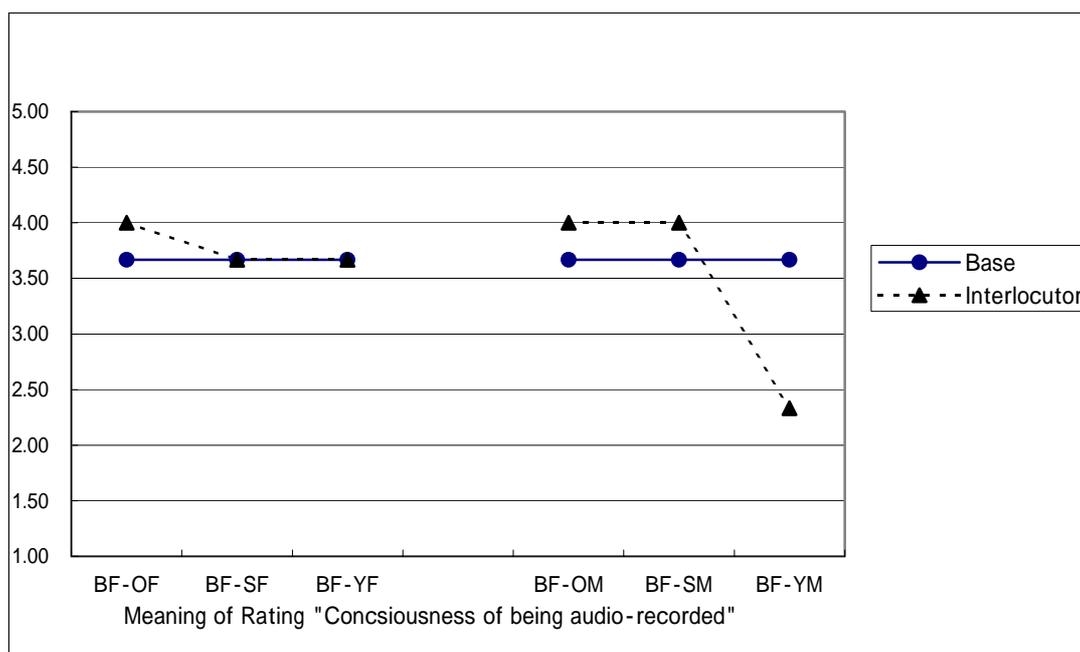


図 6. 録音を意識したか、その平均